

令和3年度 秋の公開

## 英語科学習指導案

指導者 北信教育事務所 指導主事 倉澤 航 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 教授 酒井 英樹 先生  
日時 令和3年11月2日(火)  
授業学級 2年D組(40名)  
授業会場 2年E組教室  
単元名 「おすすめ体験を提案しよう」  
授業者 柳澤 征之

### I 本校全体の研究

- 1 目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 1
- 2 全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 1
- 3 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 1
- 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ・・ 英語 2

### II 英語科の研究

- 1 英語科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 3
- 2 教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・・・ 英語 3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 3

### III 単元の指導計画

- 1 単元名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 4
- 2 単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 4
- 3 単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 5
- 4 英語科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・ 英語 5
- 5 単元に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 5
- 6 単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 9

- IV 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 英語 11

信州大学教育学部附属長野中学校 英語科

研究者 柳澤 征之 佐藤 大樹 阿部 知之  
Nanami Mimura Chase Cakmis 野口 育美

# I 本校全体の研究

## 1 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

## 2 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

## 3 研究の重点

- (1) 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。 (重点1)
- (2) 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。 (重点2)

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説の第1章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点1を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点2を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけでなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

#### 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野) 社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野) 生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決する力を高める学習の在り方

## II 英語科の研究

### 1 英語科の研究テーマ

事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方

### 2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「私たちにできることを話し合おう」（令和3年6月・2年）では、環境に関する話題について、事実や考え、気持ちなどを伝え合う学習を構想し、得られた情報の整理や話す順序を意識できるようにした。そこでは、環境を守るためにできることを「附中・SDGs宣言」として「NAGANO SDGs PROJECT」へ投稿するために、得られた情報を「My info-sheet」に整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付けた。

K生は、R生、N生の3人グループで、環境を守るために私たちができることについてやり取りを行う中で、「My info-sheet」（図1①）を基に、自分の考えを理由とともに述べた。そして振り返りに、理由の中に事実に対しての気持ちが混ざっているので、根拠の中に事実を入れた方がよいとR生とN生から指摘されたことを記述した。次時、教師は、考え、理由、事実や気持ちを分けて「My info-sheet」に整理し直す場面を設けた。K生は、根拠として使用したニュースの内容を見返した後、「My info-sheet」を修正し（図1②）、再度、R生とN生の3人グループで環境を守るために私たちができることについてやり取りを行った。その中でK生は、“We should know the news to notice the reality. For example, the news says there are enough trees in Japan, but we import many cheap trees. In Asia, people cut many trees, that’s bad for the environment. So, we should read the news more.”と述べた。K生は、理由の中にニュースの内容を入れていたが、理由と事実を分けて整理し直し、「考え→理由→根拠となる事実」の順番で話すことで、相手に自分の考えを伝えることができた。これに対し、R生とN生は、K生の考えに関わって自分の考えを述べた。本校英語科では、このようなK生の姿を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高めた姿であると捉える。

また、単元の最終時、単元の初めに記録したやり取りの動画とともに、「ロイロノート」に書き溜めた内容面と言語面からの振り返りを見返し、互いの考えを伝え合うために大切なポイントを考える場を位置付けた。K生は、「初めは、考えたこととニュースの内容をただ伝える感じだったが、友から質問を受けたり、情報を整理したりすることで、自分の伝えたい内容やそれを伝えるための順序が明確になり、最終的に宣言する内容を決めることができた。また、考えを事実と区別するためにI thinkを使ったり、根拠を示すためにthe news says～を使って引用したりすればよいことが分かった。他の話題でも情報を整理しながらやり取りを繰り返して、もっと英語を話せるようになりたい。」と振り返った。本校英語科では、このようなK生の姿を、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿であると捉える。

このような学習を積み重ねていくことで、英語科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

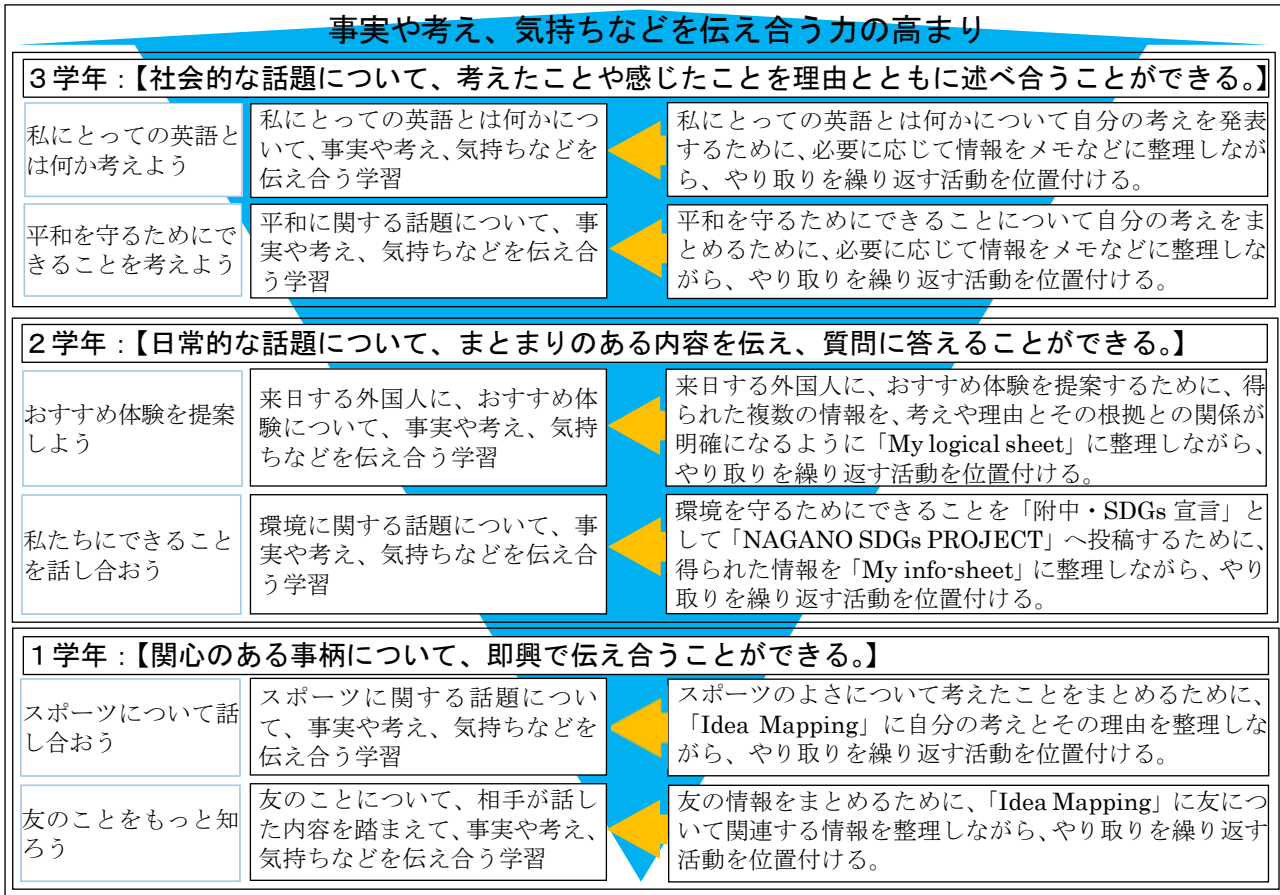
### 3 研究内容

中学校学習指導要領外国語科第2節(2)では、「具体的な課題等を設定し、コミュニケー



図1 K生の「My info-sheet」の一部

ションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現すること」を通して、思考力、判断力、表現力等を育成することが求められている。本校英語科では、この学習の過程に沿って、事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高めるために、「話すこと〔やり取り〕」における本校生徒の実態と中学校学習指導要領外国語科で育成すべき資質・能力から、英語科の研究テーマを具現するために至りたい各学年の段階を決め出し、3年間の構想図を作成した(図2)。ここでは、生徒が必要感をもって相手と考えを伝え合うことができるような単元の学習を構想した。



※上記の図は、以下のような構成となっている。



図2 事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高めるための3年間の構想の一部

生徒は、中学校3年間を通して、聞いたり読んだりするなどして得たことを基に自分の考えを形成し、「ロイロノート」内にある思考ツールを基にした様々な種類のメモに考えや情報を整理しながら、やり取りを繰り返す。

1年次に紹介する「Idea Mapping」(図3)は、主に自分や友の考えを広げたり深めたりするために用いる。これは、ある対象に関係するものを見つけて増やしていく際に有効である「ウェビング」と呼ばれる思考ツールを基にしている。そこに矢印を加えたり、項目ごとに並べたりすることで、それぞれの情報の関係を明確に整理することができる。と考える。

2年次に紹介する「My info-sheet」(図1)と「My logical sheet」(図4)は、どちらも得られた情報から自分の考えを形成するために用いる。「My info-sheet」は、考えを構

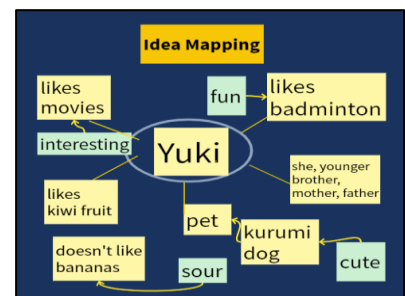


図3 友の情報を整理するための「Idea Mapping」の使用(例)

造的（網構造・層構造など）に整理する際に有効である「情報分析チャート」と呼ばれる思考ツールを基にしている。具体的には、事実を分析し、推測を経て考えに至る。その思考の流れを逆向きにし、理由と根拠などの関係を整理することで、単一的な理由や根拠を展開していくことができると考える。

「My logical sheet」は、対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる角度から捉えたりするために有効である「フィッシュボーン」と呼ばれる思考ツールを基にしている。

具体的には、頭骨（図4①）の箇所に対象が入り、中骨（図4②）に対象の要因、小骨（図4③）に具体的な事実が入る。その頭骨の部分に「自分の考え」、中骨に「理由」、小骨に「根拠」を整理し、矢印を加えて理由や根拠の順序を明確にすることで、複合的な理由や根拠を聞き手に伝わりやすく展開していくことができると考える。

本単元では、生徒は、自分の考えだけでなく、相手の嗜好や意向などに基づいて、自分の体験や身近な人の考え、マスメディア上の情報などから得られた複合的な情報を基に提案内容を形成するため、「My logical sheet」が適すると考えられる。これを用いることで、考えや理由とその根拠となる情報が可視化され、生徒は、情報を整理しながらやり取りを繰り返す中で、考えとその理由や根拠の関係を修正したり、考えを再構築したりしていく。そして、まとまった内容を伝える必要があるため、話す順序にも意識が向き、矢印でつながりながら話す順序を整理する。

本校英語科では、1～2年次は、「Idea Mapping」、「My info-sheet」、「My logical sheet」など、思考ツールを基にしたメモを用いて、互いの考えを伝え合うようにしていく。その上で、3年次は、必要に応じてメモの使用を自分で判断し、メモがなくても互いの考えをやり取りすることができるようにしていく。このように、情報を整理しながらやり取りを繰り返すことで、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う力を高めることができると考えた。そうすることで、考えや理由とその根拠の情報が可視化され、それらの関係や話す順序が整理されていくことで論理的に表現することにつながると考えた。



図4 「My logical sheet」(例)

### Ⅲ 単元の指導計画

#### 1 単元名・学年 「おすすめ体験を提案しよう」・2年

#### 2 単元の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

来日する外国人に、おすすめ体験を提案するために、それぞれの状況や条件に適した体験について、事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。【(3)イ】

※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』によると、英語の目標は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、一文の能力記述文で示すことが基本となっているため、本校他教科の学習指導案の単元の目標とは異なる表記をしている。

#### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知	形容詞、副詞を用いた比較表現の特徴やきまりを理解している。	思 来日する外国人に、おすすめ体験を提案するために、それぞれの状況や条件に適した体験について、事実や考え、気持ちなどを伝え合っている。	態 来日する外国人に、おすすめ体験を提案するために、それぞれの状況や条件に適した体験について、事実や考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。
技	来日する外国人に、おすすめ体験について事実や考え、気持ちなどを伝え合うために、比較表現などを用いてやり取りする技能を身に付けている。		

## 4 英語科として、全校研究テーマに迫るための仮説

### (1) 重点1に関わる仮説

- ・来日する外国人に、おすすめ体験を提案するために、得られた複数の情報を、考えや理由とその根拠との関係が明確になるように「My logical sheet」に整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付ける。このようにすることで、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、おすすめ体験について事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。(単元)
- ・ALT の友人とその家族に長野でのおすすめ体験についてグループとしての提案をまとめるために、提案内容の理由とその根拠との関係に着目しながらグループで1回目のやり取りをし、考えを全体で共有した後に「My logical sheet」を基に、自分の考えを再構築したり、相手への質問を考えたりして、2回目のやり取りをする活動を位置付ける。このようにすることで、自分の経験、身近な人やマスメディア上の考えや情報などを根拠に、おすすめ体験について事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができる。(本時)

### (2) 重点2に関わる仮説

- ・単元の終末、Lesson Goal について振り返った後、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら本単元の学習過程を振り返り、今後の学習に生かせそうなことを考える場を位置付ける。このようにすることで、相手意識をもって英語を学習するよさを実感したり、互いの考えを伝え合うためには、得られた情報を考えや理由とその根拠との関係が明確になるように整理することの有用性を認識したりするなど、学んだことの意味や価値を自覚することができる。

## 5 単元に寄せた教材化

### (1) 来日する外国人に、おすすめ体験を提案するために、得られた複数の情報を、考えや理由とその根拠との関係が明確になるように「My logical sheet」に整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付ける

第1時、ALT のナナ先生は、友人が来日する予定であることと、それに関わる情報を生徒に伝える(図5)。生徒は、ナナ先生が検索している外国人向けの体験のウェブサイトを見て、どの体験も興味深いと考え、様々な体験の中から、ナナ先生の友人におすすめ体験を提案したいと願うだろう。そこで、教師は、Lesson Goal 「ナナ先生の友人とその家族に長野でのおすすめ体験を提案しよう。」を設定し、提案をするために、グループで考えを伝え合う場を設ける。生徒

- ・友人 (Henley) とその家族がアメリカから来日する。
- ・彼女たちは長野県内を旅行する。
- ・ナナ先生が旅行内容を計画しようとウェブサイト外国人旅行者向けの体験を検索しているが、長野にはたくさんの体験があるのでどれをおすすめしたらよいか悩んでいる。
- ・生徒たちにも考えてもらい、いくつかにまとめて Henley に伝えてほしい。

図5 ALT のナナ先生が話す内容

は、考えをまとめていくためにも相手に納得してもらえるような提案内容を伝えたいが、理由や根拠が複数ある場合、どのようにメモに整理するのがよいか悩むだろう。そこで、教師は、「My logical sheet」が適していることを伝え、その使い方を紹介する。

第2～6時、教師は、教科書の登場人物である Jing たちが、外国からの留学生を迎える場面があることを伝え、「My logical sheet」を用いて、Jing たちがどのような考えからおすすめ体験を決めていったのかを、考えや理由とその根拠との関係を整理しながら友と考えをやり取りしていくことを提案する。生徒は、理由や根拠の内容や話す順序に気を付けながらやり取りするだろう。教師は、全体で Jing たちの考えを共有する際、友の考えについて確認する質問をしたり、質問に対して返答したりするやり取りや、友の考えに意見を述べている姿を取り上げ、やり取りを継続していくための表現について触れる。その後、考えや理由とその根拠との関係について不明確であった部分の「My logical sheet」を整理し直すように促す。生徒は、Jing たちが、おすすめ体験を決める

ために、相手のことについて知ろうとしたことから始まり、ウェブサイトの様々な情報や、相手の学校からの返信メールの内容を根拠に最終的な体験内容を提案したのではないかと考えるだろう。そこで、教師は、Jing たちが、最終的にどのようなおすすめ体験を提案するのかを予想し、得られた情報を整理した後にやり取りする場を設ける。生徒は、前時までに得られた情報を「My logical sheet」に整理し直していく（図6）。そして、それらを根拠に Jing たちの立場に立ってそれぞれの考えを述べていくだろう。その後、自分たちもナナ先生の友人とその家族に提案するために、友人とその家族に関する情報をさらに得たいと願うだろう。

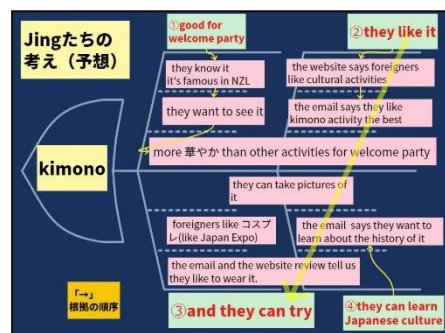


図6 「My logical sheet」第6時(例)

第7～8時、教師は、ナナ先生の友人とその家族に質問したいことをまとめる場を設け、生徒は、考えた質問をメールで送付する。その後、生徒は、ナナ先生の友人とその家族からの返信内容、自分の経験、身近な人やマスメディア上の考えや情報などを根拠に、おすすめ体験について自分の考えを「My logical sheet」にまとめる。

第9時(本時)、教師は、ナナ先生の友人とその家族に長野でのおすすめ体験についてグループとしての提案をまとめるために、提案内容の理由とその根拠との関係に着目しながらグループで1回目のやり取りをし、考えを全体で共有した後に「My logical sheet」を基に、自分の考えを再構築したり、相手への質問を考えたりして、2回目のやり取りをする活動を位置付ける。生徒は、ナナ先生の友人とその家族の意向に基づいた友の考えや、ウェブサイトに書かれている外国人のレビューを根拠に述べている友の考えなどに共感し、理由とともに自分の考えを述べるだろう。また、友の考えとその理由との関係を確認したかったり、さらに具体的なことを知りたかったりする場合には相手に質問するだろう。



図7 「My logical sheet」本時(例)

教師は、全体で考えや表現を共有する際、考えを明確にするための質問やそれに対する返答などの仕方や表現について触れ、「My logical sheet」を基に、自分の考えを再構築したり、相手への質問を考えたりするように促す。生徒は、「My logical sheet」にある情報の順序を入れ替えたり、根拠となる事実をウェブサイトで確認したりするだろう（図7）。そして、2回目のやり取りでは、1回目に質問されたことについて資料を用いて伝え直したり、互いの共通点を探ったりして、自分の経験、身近な人やマスメディア上の考えや情報などを根拠に、事実や考え、気持ちなどを伝え合い、グループの提案をまとめていくために、よりよい考えを見いだしていくだろう。

第10～11時、生徒は、他のグループとのやり取りから得られた情報を基に再度グループでやり取りを行い、提案内容をまとめる。その後、提案内容を動画で送付し、返信動画を見た後、ナナ先生の友人やナナ先生からの感想を聞いて、単元の振り返りを行う。

以上のように、来日する外国人に、長野でのおすすめ体験を提案するために、得られた複数の情報を、考えや理由とその根拠との関係が明確になるように「My logical sheet」に整理しながら、やり取りを繰り返す活動を位置付けることで、生徒は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、おすすめ体験について事実や考え、気持ちなどを伝え合うことができるのではないかと考えた。

- (2) 単元の終末、Lesson Goal について振り返った後、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら本単元の学習過程を振り返り、今後の学習に生かせそうなことを考える場を位置付ける




教師は、毎時間の終末に、Today's Goal に対する内容面や言語面からの振り返りを「ロイロノート」に記述するように促した後、共有機能を使い、友の振り返りを読む場を設ける。生徒は、友の振り返りに共感したり、新たな考えや英語での表現に触れたりする中で、気付いたことや次の時間に生かしたいことなどを、追加機能を用いて、「ロイロノート」を自分なりに整理していこう（図8）。教師は、友の振り返りを追加した理由を尋ねる。生徒は、追加した理由を明確にすることで、次の時間に向けた見通しをもつことにつながっていくと考える。


<p><b>第4時振り返り</b>          ジンがウェブ上から「ニュージ          ランドの人のレビュー」を見          付けていた。私もアメリカ人          に提案する予定なので、アメリ          カ人のレビューを見てみたい。</p>	<p><b>第9時振り返り</b>          比較表現を使って順番も考え          て伝えられたと思う。友の考          えに対して質問があまりでき          なかった。次回まとめる時に          はもっと質問をしたい。</p>
<p>友の振り返り          好きなことばかり聞          くのではなく、苦手          なことや心配なこと          を質問するのも相手          意識だと思った。</p>	<p>言語面：          as-asは、          同等という          時に使える          表現 more          は比較</p>
<p>友：ジンたち          のようにウェ          ブサイトの情          報を根拠とし          て示すことが          できた。</p>	<p>メモ：review          from a lady          in England.          Japanese          Green tea.</p>


図8 生徒が振り返りを整理した「ロイロノート」(例)

第12時、教師は、Lesson Goal に対して、本単元で学んだことを振り返るように促す。生徒は、返信メールの内容、自分の経験、身近な人やマスメディア上の考えや情報など、様々な点から相手を意識して取り組んできたことを振り返り、提案内容に満足しているナナ先生の友人の返信動画やナナ先生の感謝の言葉から、目的をもって取り組んできたことに充実感を得て、英語を学習することの意味や価値を実感し、これからも英語を学習していく意欲を高めていこう。その後、教師は、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画（図9）や毎時間の振り返りを見返し、本単元の学習過程を振り返るように促す。

生徒は、理由や根拠が複数ある場合でも、「My logical sheet」を用いて整理しながら、やり取りを繰り返す中で、考えや理由とその根拠との関係を明確にしながら順序を整えて、自分の考えを形成していくことで、相手に納得してもらえる内容で伝えることができたことを実感するだろう。さらに、教師は、今後の学習について生かせそうなこ


 I recommend Zenkoji temple because it is the first time for them to visit Nagano. Zenkoji is the most famous place in Nagano. And they should try to make Soba.


 I think they should go to the mountains because Nagano has a lot of nature spots. For example, I think Togakushi is the best place. It is a nice place.


 I think so too. I also recommend the mountains because Nagano has snow-monkey hot spring.

第1時のやり取り動画記録例

---

 I think they should experience Japanese culture. She wants to try one of them and her family likes outdoors. So I hope they will try the rice farming in Ogawa. Also, they can stay at farmer's traditional house there. I think it's very attractive for them.

 That's a good idea. The website for visitors to Japan says agriculture experience in local areas are getting more famous than before. I want to recommend not Nagano area, but Azumino. They can see a beautiful view of rice fields. Also, she likes drawing.

 I want to recommend the hot spring place because Nana sensei says foreigners like to try the hot spring. What do you think? How about hot spring in Azumino?

第10時のやり取り動画記録例

図9 「ロイロノート」に記録されたやり取り動画の一部(例)

とを考えるように促す。生徒は、「My logical sheet」のようなメモに情報を整理していくことの有用性に言及したり、互いの考えを伝え合う際には、考えや理由とその根拠との関係を考えてやり取りをしていくことについて述べたりするだろう。

以上のように、単元の終末、Lesson Goal について振り返った後、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返ししながら本単元の学習過程を振り返り、今後の学習に生かせそうなことを考える場を位置付ける。このようにすることで、相手意識をもって英語を学習するよさを実感したり、互いの考えを伝え合うためには、得られた情報を考えや理由とその根拠との関係が明確になるように整理することの有用性を認識したりするなど、学んだことの意味や価値を自覚することができる。

6 単元展開 来日する外国人に、おすすめ体験について、事実や考え、気持ちなどを伝え合う学習 全12時間扱い 本時は第9時

段階	◆学習	教師の指導・支援	予想される生徒の反応	評価の観点	時間
導入	◆おすすめ体験について、ALT から得た情報を基に考えを伝え合う。			記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは、毎時間必ず行う。	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT の話を聞く場を設け、アのような反応から Lesson Goal 「ナナ先生の友人とその家族に長野でのおすすめ体験を提案しよう。」を設定する。</li> <li>グループで、おすすめ体験についてやり取りする場を設ける。</li> <li>イのような生徒の発言から、考えや理由とその根拠との関係を整理するための「My logical sheet」を紹介する。</li> </ul>	<p>ア ナナ先生の友人とその家族が長野を訪れるようだ。長野には外国人旅行者向けの場所や体験がたくさんあり、ナナ先生は何をおすすめしようかを悩んでいるらしい。私たちからも提案したい。</p> <p>イ 私は、善光寺の参拝やそば打ち体験をおすすめしたい。友は、長野には自然がたくさんあるので、山での体験をおすすめしたいと言っている。理由や根拠が明確だと相手に伝わりやすいと思うが、情報がたくさんあって整理するのが大変そうだ。どのようなメモがよいのだろうか。</p> <p>ウ 「My logical sheet」を使っていけば自分の考えや理由とその根拠との関係を整理できそうだ。これから提案内容を考えるために、たくさんの情報を得ていきたい。</p>			
展開	◆Jing たちが、日本を訪れる留学生に対してどのようにおすすめ体験を決めていくのかを、得られた情報を「My logical sheet」に整理しながら、考えたことや感じたことを伝え合う。				2 ～ 6
	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の①～④について、やり取りする場を設ける。その中で、形容詞、副詞を用いた比較表現の特徴やきまりを確認したり、やり取りを継続していくための表現について触れたりする。</li> <li>①ニュージーランドと日本</li> <li>②ウェブ上の外国人旅行者によるランキング記事</li> <li>③日本を訪れたニュージーランドの人の投稿</li> <li>④姉妹校の先生からの返信メール</li> <li>Jing たちが、返信メールを受け取った後、どのような提案をするのかを予想してやり取りするように促す。</li> </ul>	<p>エ ①②③→ニュージーランドと日本を比較したり、ウェブ上にある外国人旅行者向けのランキングで調べたことを基にしたりして計画を立てている。相手のことについて調べて決めるのではなく、複数の情報を参考にしているので、より説得力のある提案になりそうだ。</p> <p>オ おすすめ体験を比べる時には比較表現を使うとよいということが分かったので、提案する際に使っていきたい。</p> <p>カ 考えをまとめていくためには、友の理由や根拠の部分について質問したり、共感、反対する点について理由とともに述べたりすることが大切だと分かった。</p> <p>キ ④→Jing たちは、相手の意向や自分たちがおすすめしたい体験を踏まえて、全員が楽しめる書道や着付け体験などを提案するだろう。相手に提案して、相手の意向を聞いてから再度、話し合っているのがよいと思ったので、自分たちも質問してから提案内容を再度検討したい。</p>			
	◆ナナ先生の友人とその家族への質問をまとめ、得られた情報から自分なりの提案をまとめる。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>キのような振り返りから、Today's Goal 「質問内容を出し合い、メールで尋ねよう。」を設定する。</li> <li>返信内容、自分の経験、身近な人やメディア上の考えや情報などを調べながら「My logical sheet」に整理し、提案したいことをまとめるように促す。</li> </ul>	<p>ク ナナ先生の友人とその家族が、アウトドアの中でもどのような体験をしたいのか、また、どのくらい長野について知っているのかを尋ねると、提案しやすくなりそうだ。</p> <p>ケ アウトドアが好きらしいので、志賀高原でグラススキーをした後に、近くの渋温泉で外湯めぐりをすることを提案したい。ウェブサイトによると、欧米人は温泉や庭園を好むらしいので、日本式の旅館で日本庭園を満喫してほしい。他の人は、どのような提案をするのだろうか。</p>		7 ～ 8	
	◆グループでやり取りを行い、提案内容をまとめる。				9 ～ 11 (本時は第9時)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケのような振り返りから Today's Goal 「提案内容の理由とその根拠との関係に着目しながら、グループで話し合おう。」を設定し、3人グループでのやり取りを促す。</li> </ul> <p>A : I recommend Grass-skiing in Shiga Kogen because she likes outdoors. She told us in the email. How about going to the hot spring after skiing? I know they like Japanese gardens.</p>	<p>コ 自分の考えとその理由が友に伝わるように順序を意識して話してみよう。また、メールの返信にもあったように、ナナ先生の友だちはアウトドアが好きだったり、日本の文化に興味をもったりしているので、これらのことが根拠になりそうだ。</p>	10分		

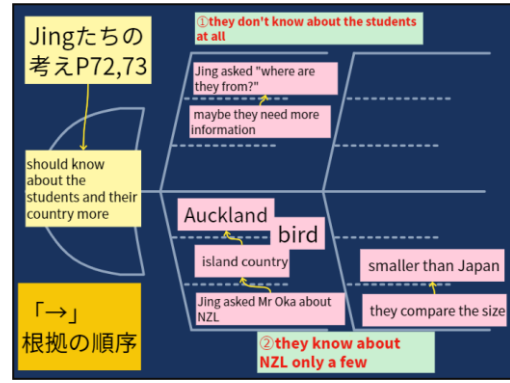
	<p>Japanese <i>Ryokan</i> has both hot springs and Japanese gardens.</p> <p>B: I recommend Zenkoji because they can try <i>zazen</i> and <i>shukubo</i> there. She says she wants to try Japanese culture. I agree with A san's idea because it is Japanese culture too. Do you know any <i>Ryokan</i> around Shiga Kogen? It is hard for them to go if it's far.</p> <p>C: I agree with B san's point. I wonder they can drive cars. My idea is to experience agriculture, rice farming and staying in farmer's house. They'll enjoy real lives in Japan.</p>		17分	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>やり取りしたことを全体に発表するように促し、考えや表現などを共有する。</li> <li>自分の情報を「My logical sheet」に整理する時間をとる。</li> <li>全体で共有したことや、整理したことを参考にしながら、やり取りを行うように促す。</li> </ul>	<p>サ BさんやCさんに指摘された通り、距離や移動手段のことを考えていなかったので、この後調べた上で情報を整理してみたい。</p> <p>シ 近くにある渋温泉を紹介することができそうだ。志賀高原から近いことも新しい根拠として入れることができそうだが、3人に共通している点は日本文化の体験という点であり、Cさんの農家での宿泊体験の考えの方がより日本の家での生活が体験できそうだ。</p>	13分	<p>(観察…グループでのやり取りの様子を「ロイロノート」で録画)</p>
<p>A : They can stay Shibu Onsen after Shiga Kogen because they are close. But, we all think they should experience Japanese culture. I agree with C san's idea the best. She says they can experience agriculture, rice farming. And they can stay farmer's house. It's a Japanese traditional house. The web site says foreign people like Japanese gardens. So, they will be much happier. How about you?</p> <p>B : I agree with your reason. I like C san's idea better. I went to Ogawa before, so I know there. There is a hot spring around Ogawa, they can go there because they want to relax in Japan. I don't remember the name. Let's check it later.</p> <p>C : Nice idea. I agree with B san's idea, <i>zazen</i>, because temples are also Japanese culture. Let's check. Ogawa has a famous temple and they can try <i>zazen</i> there or not.</p>		10分		
<ul style="list-style-type: none"> <li>Today's Goal に対する内容面や言語面からの振り返りを「ロイロノート」に記述するように促す。</li> <li>共有機能で、友の振り返りを読む場を設ける。</li> <li>友の振り返りを追加した理由や、新たに気付いたことも踏まえ、振り返りを全体で共有する。</li> </ul>	<p>ス 友の提案の理由やその根拠との関係に着目しながらやり取りをしたことで、互いの考えが明確になり、共通点などから考えをまとめていくことができた。互いの考えを比較する時に比較表現を使うことができた。他のグループはどうなったのか気になるが、まずは自分のグループの提案内容をまとめていきたい。</p> <p>セ 他のグループの友は、相手に伝わりやすいように地図を用いて説明していた。小川村周辺のことをさらに調べて、根拠として地図を用いて提示したいと思う。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループメンバーとやり取りした情報を基に、再度グループでやり取りし、まとまった提案内容を動画に記録する場面を設定する。</li> <li>動画の返信を見たり、ナナ先生の感想を聞いたりする場面を設定する。</li> </ul>	<p>ソ 自分のグループの考えを伝えたら共感してもらうことができたので、Cさんの考えを基本として、小川村での米作りと宿泊体験に加え、お寺で座禅体験をしてもらうことに決めた。この提案を気に入ってくれることを願いたい。</p> <p>タ ナナ先生とその友人も私たちの提案に満足そうだったので、考えたことを提案してよかったと思う。</p>			
終 末	<p>◆本単元を通しての自分の取組を振り返り、学んだことを明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Lesson Goal について振り返ったり、「ロイロノート」に蓄積してきたやり取りの動画や毎時間の振り返りを見返しながら本単元の学習過程を振り返り、今後の学習に生かせそうなことを考える場を設ける。</li> <li>振り返りを全体で共有する。</li> </ul>	<p>チ ナナ先生やナナ先生の友だちの役に立つことができ嬉しかったし、相手意識をもって英語を学習することのよさを感じた。何のために英語を勉強しているのかが分かったような気がした。もっと英語を勉強していきたい。</p> <p>ツ たくさんある情報を「My logical sheet」を使って、考えや理由とその根拠との関係が明確になるように整理したり、友と繰り返し伝え合ったりすることで、相手に納得してもらえそうな表現で話せるようになり、よりよい提案になったと思う。これからもメモなどを使って、話す順序や理由とその根拠との関係を意識していきたい。</p>	12	
後 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>パフォーマンステストを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとまりのある英文を読んで、互いに事実や自分の考え、気持ちを伝え合う。</li> </ul>		<p>知 技 思 態</p>

資料 教科書 (NEW CROWN English Series 2 「Lesson 5 Things to Do in Japan」) 本文と予想される「My logical sheet」

① ニュージーランドと日本

Mr. Oka: The students from New Zealand are coming soon.  
 Jing: Yes, I remember. New Zealand is an island country like Japan, right?  
 Mr. Oka: Right. It's smaller than Japan.  
 Jing: I see. Where are the students from?  
 Mr. Oka: Auckland on the North Island. It's the largest city in New Zealand.

Q&A Where is Auckland?

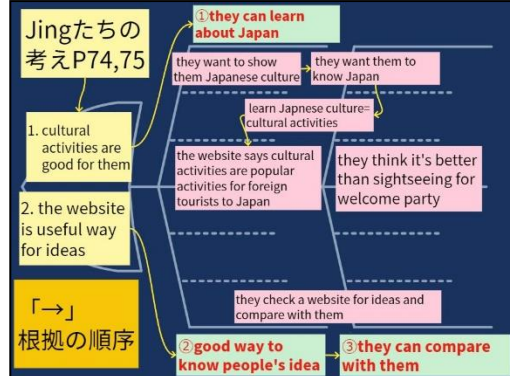



② ウェブ上の外国人旅行者によるランキング記事

Riku: This table compares some popular activities for foreign tourists.  
 Jing: I see. Sightseeing is the most popular activity on the list.  
 Riku: Yes, and cultural activities are more popular than shopping.  
 Jing: I think cultural activities are the perfect way to learn about Japan.  
 Riku: Then let's include them in the welcome party.

Rank Popular Activities for Foreign Tourists to Japan

- 1 Sightseeing
- 2 Cultural activities
- 3 Shopping
- 4 Outdoor activities

③ 日本を訪れたニュージーランド人の投稿

**My Trip to Japan** September 25 To New Zealand

When I visited Japan with my daughter, we went sightseeing and shopping. We also participated in cultural activities. They were as interesting as sightseeing or shopping. My daughter liked *shodo*, Japanese calligraphy, the best. I liked wearing a kimono better although the fee was quite high. We learned a lot and had fun.




④ 姉妹校の先生からの返信メール

From: Auckland High School  
 To: Wakaba Junior High School  
 Subject: Japanese Cultural Activities of the Party

Dear students and teachers at Wakaba Junior High School,

Thank you for offering us some choices of activities at the welcome party. Everybody in my class answered your question. I will write a summary in this e-mail. I will attach a file to give you further details.

Eight of my students like the kimono activity the best. They know kimonos from Japanese movies and manga. They think kimonos are the most beautiful thing in Japanese culture. They want to wear them, take pictures, and learn about the history of kimonos.



Karate is as popular as wearing a kimono. Another eight students chose this activity. Half of them are members of a karate dojo in Auckland. They think karate practice in Japan is harder than in New Zealand, so they want to practice karate with Japanese students.

A couple of my students chose shodo. These students are interested in languages. They think Japanese writing is the most beautiful. They want to use shodo brushes and write their names and some words in Japanese.

In short, for our class, these three activities are more interesting than other activities. I hope this information helps when you organize the welcome party. This will be a great opportunity for us. We look forward to seeing you soon.

All the best,  
 Jacob



